

平成29年度 社会福祉法人淡路島福祉会事業方針

本部長 岡本和浩

米国においてトランプ政権が発足しました。トランプ候補を大統領に押し上げた最大の推進力は、米国民の間に広がる現状への不満、つまり変化を求める声にあったといえます。今後、各国の関係性は少なからず変化し、日本も例外ではありません。

今、社会福祉法人では、大きな変化として、社会福祉法人制度改革の真ただ中にあります。その主な内容は、「公益性・非営利性を確保する観点から制度を見直し、国民に対する説明責任を果たし、地域社会に貢献する法人の在り方を徹底する。」とあります。当然ながら、法に従い書類を整備し、組織を変更し、より優れた運営を目指し取り組んで参ります。

福祉分野の経営は、これまでどおりでは継続が困難になることは、関係者の多くが予想する状況にあります。2020年の東京オリンピックの頃にはどう変わっているか、これから先、福祉業界初とも言える、選ばれることに努力する、勝負の時がやって来ると感じています。

様々な課題や対応策が考えられますが、私はその最大の焦点は、地域が求める福祉職場で素晴らしい力を発揮できる優秀な人材の確保と育成であると思います。

配置基準を満たすために、外国人雇用など、様々な取り組みがなされてきます。

これからのグローバルな国際社会においては、必然的な動向であり否定するものではありません。

何れにしても、大きく変わっていく状況に対し、どう対処すべきかが問われる時です。変化の源は、不平・不満・不平等・不均衡などが大きい要因であることは、歴史的にもみてとれますが、変化の源を無条件の愛だとする主張もあります。

私たちに、その変化の源である声を拾い上げ、適切に対処できる組織を作ることができたら、その先には笑顔や幸せがあるのではないかと思います。

未来を見ながら、タイムリーに課題に取り組み、良い変化を遂げて行く一年にして参ります。